

現場代理人		監督員		係長		課長	
-------	--	-----	--	----	--	----	--

平成 年度 起工第 - - 号 事業

〇〇地区治山工事(谷止工)

福岡県〇〇市・郡〇〇町・村字〇〇地内

平成 年 月 日

施 工 計 画 書

請 負 者

印

1- (1)

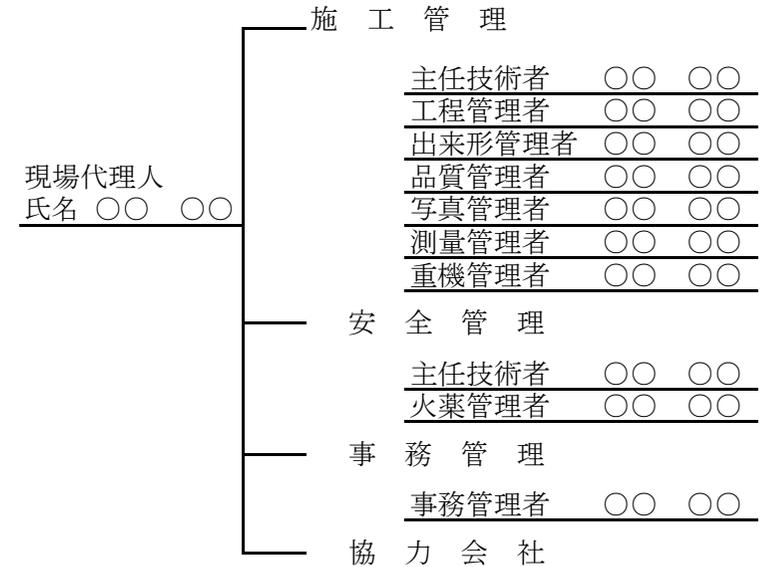
施 工 計 画 書

(1) 事業名 平成 年度 事業
 (2) 工事場所 福岡県 市・郡 町大字 字 地内
 (3) 工期 自 平成 年 月 日 日間
 至 平成 年 月 日

(4) 工事内容

工 種	種 別	数 量	単 位	摘 要
谷 止 工	コンクリート			L=〇〇. 〇m、H=〇. 〇m
	本堤		m ³	
	間詰め・袖かくし		m ³	
	側壁		m ³	
	垂直壁		m ³	
	水平打継面処理		m ²	
	止水板		m	
	目地材		m ²	
	人工張芝工		m ²	
	植生マット工		m ²	
	丸太階段工		段	
	植栽工		本	
	仮 設 工	仮設道(路盤工)		m ³
仮設道(コンクリート)			m ³	
敷鉄板			枚	
大型土のう			袋	
産廃処理工	木くず		t	
	廃プラスチック		t	
治山付属施設工	治山用銘板		枚	
工事標識	木製工事用看板枠(大)		基	
	木製工事用看板枠(小)		基	

現 場 組 織 表



会 社 名	工 種	責任者氏名
(株)〇〇組	土工	〇〇 〇〇
〇〇建設(株)	型枠工	〇〇 〇〇
(有)〇〇圧送	ポンプ打設	〇〇 〇〇
〇〇森林組合	伐採工	〇〇 〇〇

工 事 施 工 計 画 表

工 種	種 別	施 工 計 画	摘 要
準 備 工	準 備	・工事着手に先立ち、地権者、地域住民及びその他関係者との連絡協議等を行い、工事が円滑に進められるようにする。	
		・現場出入口及び現場までの主要箇所にて工事看板を設置し、第三者に対して工事中であることを周知する。	
		・現場近くに現場事務所、仮設トイレを設置し、安全旗及び工事関係標識等を掲示する。	
	伐 採	・立木伐採範囲について、地権者と立会し、用地・立木処理について確認の上承諾を得て伐採を行う。	
		・伐採した立木・枝条は、適切な場所に片付ける。	
		・チェーンソーによる伐倒作業は必ず有資格者が行う。	
	起工測量	・立木伐採完了後、設計図書に基づき、本BM・用地境界・中心線・法線・縦断・横断・方向等の測量を行い、測量結果を監督員に報告し、設計図書と差異がなければ丁張り及び控杭・仮BMを(○箇所)設置し、監督員の確認を受ける。	
		・仮BM及び方向杭は、変動しないように囲い等で保護し、工事中は適時位置・基準高の確認を行う。	
	谷 止 工	土 工 (本堤) (側壁) (垂直壁)	・掘削(床堀)はバックホウ(○m ³ 、○m ³)○台を使用し、岩盤部においては大型ブレイカを用いて設計図書に基づき所定の深さ・幅・延長に注意して掘削する。
・掘削中に設計図書と異なる土質・岩盤・転石等が露出した場合、又、予期しない湧水の発生及び埋設物等の出現があった場合は、監督員に報告し指示を受ける。			
・掘削した土砂等は、堤体の上流側に置き、工事に支障がないように処理する。また、処理期間中は、土砂の流出がないように締固めを行いシート等で覆い流出を防ぐ。			
・掘削箇所の湧水及び溜水等は水中ポンプ(口径○○)により排除する。また、滞水は布等により吸取る。			
・掘り過ぎた場合は、本堤と同質か、それ以上のコンクリートで埋戻しを行う。			
掘削面整形 岩盤清掃 (本堤) (側壁) (垂直壁)		・掘削面の仕上げは、人力(簡易削岩機を含む)により玉石・岩石等の浮石及び不安定な土砂を取り除き、岩盤は高圧洗浄機により基面の清掃を行い、整形完了後、監督員に床堀完了の確認を受ける。	
		・掘削面の保護については、降雨時による法面の変化・湧水の状況が把握できるようにビニールシート等で保護する。	

注 任意仮設工で特に重要と判断される場合には記載するものとし、仮設図は必要に応じ添付する。

工 種	種 別	施 工 計 画	摘 要
	埋 戻 し	・本堤の埋戻しは、雑物等が入らないように取り除き清掃し、バックホウ及びタンク等で監督員に指示された高さまで、構造物に損傷、偏圧を与えないように注意しながら行う。	
		・その他の埋戻しは、現地盤高を目安に行い、本堤袖部に残る掘削崖は、法切及び埋戻し等の処置をして、崩壊の原因とならないようにする。	
	型 枠 工 (本堤) (袖かくし) (間詰) (側壁) (垂直壁)	・型枠は、化粧合板型枠を使用し、設計図書及びコンクリート打設計画に基づき所定の幅・高さ・延長・勾配に組み立てる。	
		・型枠支保工は、十分な強度と安定性を持つように施工し、コンクリート打設時の衝撃・側圧に耐え、倒れ・移動等のないように強固に組み立てる。	
		・型枠の内面には剥離剤を塗布する。また、型枠の脱枠は、所定の養生期間を経過後とする。	
		・型枠を再利用する時は、ケレン・清掃してコンクリート等を取り除いた状態で使用する。	
		・木製残存型枠は、設計図書及び型枠組立て設計図に基づき、所定の高さ・延長・勾配を確認し組立て、打設完了後は解体せずに埋戻す。	
		・型枠組立に際し、作業主任者を選任して作業する。	
	足 場 工	・足場はキャットウォーク足場を各リフト上下流に設置し、ボルト・番線等で堅固に固定する。	
		・作業床は隙間・ずれ及び移動がないように番線で堅固に固定する。	
・労働安全基準に基づき、手摺りには中棧を設け、作業床と手摺りの間には幅木を設ける。			
・足場の設置前には部材の点検を行い、損傷・変形・腐食のあるものは使用しない。			
・足場設置期間中は、作業開始前に安全点検を行い、損傷部があった場合はただちに修復する。			
・足場の組立に際し、作業主任者を選任して作業する。			
コンクリート工 (本堤) (袖かくし) (間詰) (側壁) (垂直壁)	・コンクリートの打設はポンプ車打設とし、工事着工前にポンプ車打設承認願いを提出し承認を得る。		
	・運搬は、工場から現場まで片道〇kmであり、運搬所要時間は約〇分を要する。コンクリートは練り混ぜ開始から〇分以内に打設し、これを過ぎた物は使用しない。		
	・打設前に型枠内の清掃を行い、ゴミ・泥・雑物を全て取り除き、溜水等がある場合は完全に排水してからコンクリートの打設を開始する。		
	・1日当たりの打設高は別紙の打設計画図のとおりとする。打設に当たっては投入口から打設面までの高さを1.5m以下を厳守し、出来るだけ打設面との高さを低くして材料の分離に注意し、1回の打設高は〇m以下、1層の高さは〇cm～〇cm以内とする。		
	・打設したコンクリートは横移動させないように注意し、締固めは高周波バイブレーターにより十分に締固める。なお、型枠付近は、人力によって棒突き又はピカコンを使用し気泡の処理を行う。		
	・各層の打ち足しは上下のコンクリートが十分なじむようにバイブレーターを下層に10cm程度差し込んで締固めを行う。		
	・コンクリートの養生は〇日以上とし、低温・急激な温度変化等による有害な影響を受けないように、露出面を養生マットや布等で覆い散水を行い、乾燥を防ぐためにブルーシート等で覆い、常に湿潤状態を保つようにする。冬期の低温時(4℃以下)には、練炭・ジェットヒータ等を使用し品質の向上を図る。		

注 任意仮設工で特に重要と判断される場合には記載するものとし、仮設図は必要に応じ添付する。

工 種	種 別	施 工 計 画	摘 要
		<ul style="list-style-type: none"> ・コンクリートの品質管理については、打設日毎(リフト毎)に打設場所(投入口)から採取し、スランプ・空気量等を測定する。なお、圧縮強度用供試体は1回に6個作成し、1週・4週で強度試験を行う。 	
	打継面清掃	<ul style="list-style-type: none"> ・打継面清掃は、高圧洗浄機・ワイヤブラシ・エアコンプレッサ等で、表面のレイトス・緩んだ骨材粒・品質の悪いコンクリートを除去し、新しいコンクリートとの密着を図る。 ・打継面清掃は、ウォータージェット又はワイヤブラシ等を使用してレイトス除去を十分に行う。 	
	水平打継面処理	<ul style="list-style-type: none"> ・打継面処理に使用する挿筋(SD345 D16、1本当たり1.86m)は、設計図書に基づき所定の形状に加工し、必要本数(1㎡当たり1.87本)を一定間隔かつ均等に配置する。また、設置後は、挿筋が変動しないように十分注意して作業を行う。(錆びた鉄筋は使用しない。) ・リフト毎の挿筋の配置・本数については、事前に配列図等を作成し、打設後の挿入作業に不手際を生じないように確認を行い施工する。 	
	止 水 板	<ul style="list-style-type: none"> ・規格 CC300×7mmの10m物を切断しないで使用し、鉛直打継面の上流から30cmの位置に確実に設置する。 	
	目 地 材	<ul style="list-style-type: none"> ・規格 t=10mmの瀝青質板を使用し、鉛直打継面及び側壁の上下流に確実に設置する。 	
	水 抜 管 (側壁・袖かくし)	<ul style="list-style-type: none"> ・認定サイクル製品 RS-VU100mmを使用し、コンクリート打設時にモルタル等の流れ込みがないように、型枠に密着固定する。 ・埋戻前に水抜きパイプに吸出し防止材を設置する。 	
	人工張芝	<ul style="list-style-type: none"> ・施工に先立ち、材料等の品質証明及びカタログ等を監督員に提出し、承認を得る。 ・法面を凹凸がないように整形し、縦横○cm以上重ね合わせ、法肩上部は○cm程度被覆し、端部は土中に埋め込む。また、風雨により張芝が剥がれないように、目串等で固定し、養生として押さえ目土を散布し、発芽の促進を図る。 ・施工後に乾燥状態が長く続くようであれば、必要に応じて散水等の養生を行う。 	
	植生マット	<ul style="list-style-type: none"> ・法面清掃を行い、上部から下部に向かって施工し、アンカーピン・止め釘等で地表面に堅固に密着、固定させる。 	

注 任意仮設工で特に重要と判断される場合には記載するものとし、仮設図は必要に応じ添付する。

工 事 施 工 計 画 表

工 種	種 別	施 工 計 画	摘 要
	丸太柵工	・木杭は、打ち込みの衝撃により偏心、屈曲等のないよう打ち込む。	
	丸太筋工	・横木は間隙のないように並べ、木杭と鉄線等で堅固に固定し、抜け落ちないようにする。	
	丸太階段工	・木材は県産材を使用し、県産材証明書を監督員に提出する。	
治山付属施設工	治山用銘板	・監督員の指示箇所、確実に固定し設置する。	
流 路 工	コンクリートブロック積工	・コンクリートブロックの試験成績表及びカタログ等を施工前に、監督員に提出し承認を得る。	
		・設計図書に基づき、床堀高さ・幅・延長に過掘りのないよう注意して掘削する。	
		・基礎型枠は、コンクリート打設時に破損しないように確実に設置する。	
		・ブロックは間地ブロックを使用、谷積として表面の凹凸がないように施工し、2㎡に1箇所割合で水抜管(φ50mm)を千鳥で設置する。	
		・胴込・裏込コンクリートは、パイプレーターにより十分に締固めを行い、水漏れがないように注意する。	
		・埋戻前に水抜きパイプに吸出し防止材を設置する。	
仮 設 工	水 替 工	・水替工は、堤体掘削前に上流側の谷水を大型土のう等で締切り、管径300のパイプ及び水中ポンプ(口径〇〇mm)で廻排水を行い、掘削作業等に影響のないように設置する。	
		・廻排水路は、パイプの継目から漏水がないように注意し、工事施工中で崩壊がおこらないように呑口は土のうで流水を締切、排水勾配を考慮し堅固に組立設置する。	
	路 盤 工	・設計図書に基づき、所定の幅・厚さ・延長をバックホウにより敷き均す。	
		・両端部及び機械施工が困難な箇所は、人力で均一になるように敷き均す。	
		・転圧は、振動ローラー及びタンパで十分な締固めを行う。	
	コンクリート路面工	・設計図書に基づき、所定の幅・厚さ・延長を人力打設により行い、表面の仕上げは、ほうきばきとする。	
後片付け	後片付け	・工事完了後に監督員、地権者、管理者等に現地の確認をしてもらう。	
		・工事中においての破損箇所の有無などをチェックし、破損箇所がある場合は、責任をもって処理(修復)する。	
		・現場内を清掃し、使用した資材・機材等はすべて持ち帰る。	

注 任意仮設工で特に重要と判断される場合には記載するものとし、仮設図は必要に応じ添付する。

安 全 管 理 計 画

項 目	安 全 管 理 計 画	摘 要
安全委員会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月第1〇曜日に半日以上時間を設けて安全会議を実施し、本工事の重点箇所及び作業箇所・作業方法の打合せ及び反省会と翌月の主要目標を協議し、災害事故防止に努める。 ・毎月1回〇日に開催し、その月の安全目標の達成状況、翌月の月間安全目標を設定する。また、緊急時等、必要に応じて随時召集し対策を検討する。 ・安全管理者を選出し、作業中の安全及び注意事項の指導を行う。 	
発破作業上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・火薬類を使用する場合は、監督員に使用計画書を提出し、現地に火薬庫等を設置する場合は、立ち入り防止柵・警報装置等を設置する。 ・爆破に際しては、過度の爆破を避け、既設構造物に損傷を与えるおそれがある場合は、防護施設を設ける。また、電気雷管を使用する場合は、爆破に先立って迷走電流の有無を調査し、迷走電流があるときは、その原因を取り除く。 	
土運搬作業 (資材運搬作業)	<ul style="list-style-type: none"> ・重機及び車両等は、作業開始前に保守点検を行う。掘削機械の作業半径内は立ち入り禁止とし、やむを得ず立ち入る場合は誘導員を配置する。 ・工事車両は最徐行し、公道上に駐車しないように指示徹底を行う。交通安全については、道路管理者及び地元関係者と連絡を密にし、安全対策に万全を期す。 ・資材の搬出入時は、必要に応じて交通誘導員を配置する。また、地元(第三者)車両を最優先とする。 	
安全看板の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・工事名、工事箇所、工期等を記載した工事看板を工事搬入路の出入り口及び主要箇所に設置し、通行車両及び周辺住民に周知し、工事の安全に努める。 ・工事箇所において、現場事務所に安全旗を掲揚し、「立入禁止」・「ヘルメット着用」・「整理整頓」等の看板を必要な箇所に設置する。 	安全旗 
安全標識の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・現場入口に、「工事案内板」・「協力お願い板」・「トラック出入口注意」及び「工事関係者以外立入禁止」等の標識を設置する。 ・現場内各所に、「安全第一」・「服装の端正」・「火気注意」・「足下注意」等の標識を掲示する。 ・現場事務所前には、各作業責任者一覧表及び毎月の安全目標等を掲示する。 	
特別安全日の選定	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1日(休日の場合は翌日)を特別安全日とし、社内役員による安全パトロールを実施する。 ・毎月第1〇曜日を特別安全日と定め、安全作業の心得、重機・機械類の点検整備を行い、災害防止に努める。 ・毎週末終業時、現場内の整理整頓、安全目標の反省会を行う。また、翌週の作業に向けて安全目標の再確認をし、安全意識の向上を図る。 	
過積載の防止	<ul style="list-style-type: none"> ・工事資材の運搬に当たり、過積載をしないように注意するとともに、生コン会社・砕石会社などへも指導を徹底する。 	
土石流対策 (土石流に関する特記仕様書)	<ul style="list-style-type: none"> ・豪雨、出水、その他台風等の発生があった場合は、気象予報などについて十分に注意を払い、降水量等を現場又は役場等を通じて把握し、作業員の安全を確保する。 ・現場作業に携わる者全てに、避難場所・避難合図(拡声器などによる)を周知徹底し、土石流災害の予防に努める。 ・現場事務所に災害対策用のブルーシート及び土のう袋等を常備しておく。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・床堀法面は、崩壊・落石などに注意し、安全ネット及びブルーシート等で覆い、作業の安全を確保する。 ・工事車両は集落付近、通学路などを通行するときには特に注意し、最徐行を徹底するよう指導する。 	

1-(4)-1

調査及び記録(規則第575条の9)

作業場所から上流の溪流及びその周辺の状況

概況	流域面積	○. ○ha	渓床勾配(上流200m)	○○. ○%
	崩壊地の状況(有・無等)	無 有(面積 . ha) 崩壊土砂(堆砂:流出)	流域の形状	
	土石流危険溪流の有無	有 無	崩壊土石流危険地区の有無	有 無
	過去の災害歴等			

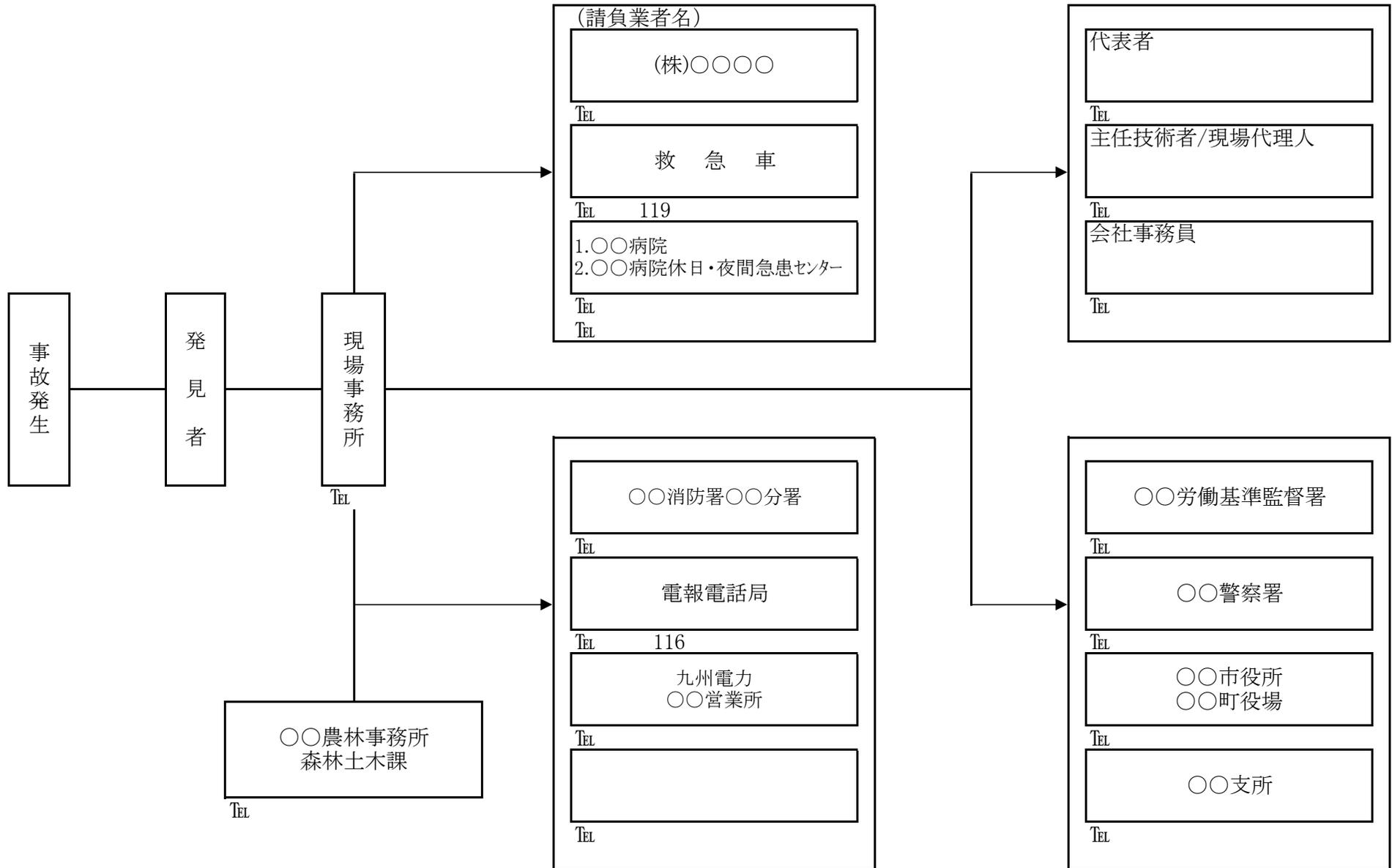
※必要に応じ図面等を添付すること。

土石流による労働災害の防止に関する規定(規則第575条の10)

降雨量の把握の方法	降雨量の把握については、現場設置の雨量計により把握するものとする。
降雨及び地震があった場合に講ずる措置	降雨があったことにより土石流が発生する恐れがあるときは、作業を中止して作業員を速やかに安全な場所に避難させる。
土石流の発生の前兆となる現象を把握した場合に講ずる措置	上記降雨があった場合と同様に、土石流の前兆となる現象が見受けられたら速やかに作業を中止して作業員を安全な場所に避難させる。
土石流が発生した場合の警報及び避難の方法	土石流が発生する恐れのある場合は、サイレン又は携帯用拡声器等により、作業員に速やかに退避するよう周知する。
避難訓練の内容及び時期	工事開始後遅滞なく1回及びその後6ヶ月以内毎に1回実施する。

※なお、上記記載については、「労働安全衛生規則の改正について(土石流による労働災害の防止関係)」を参照すること。

災 害 時 の 体 制



1-(6)

施 工 管 理 計 画

No.1

工種	種別	出来形管理		写真管理		品質管理		摘要
		管理基準	管理箇所	管理基準	管理箇所	管理基準	管理箇所	
工事全景	着工前 竣工							
一般共通	仮設物							
	安全管理							
	交通管理							
	機械施設							
	使用材料							
	伐開・除根							
	丁張							
谷止工	床掘	基準高	±50					
		幅	+100 -0					
		延長	-100					
	型枠	幅	-0					
		高さ	-0					
		延長	-0					
		勾配	±0.2分					

1-(6)

施 工 管 理 計 画

No.2

工種	種別	出来形管理		写真管理		品質管理		摘要
		管理基準	管理箇所	管理基準	管理箇所	管理基準	管理箇所	
谷止工	コンクリート (本堤工) (間詰工)	基準高	±30					
		天端幅	-10					
		法水路幅	+30 -10					
		高さ	+50 -30					
		延長	-0					
		勾配	±0.2分					
	コンクリート (水叩工)	基準高	±30					
		幅	-30					
		厚さ	-20					
		延長	-50					
	水平打継面	本数	-0					
		列A	-0					
		かぶり幅1	-0					
		かぶり幅2	-0					
		鉄筋間隔(横)	-0					
		鉄筋間隔(縦)	-0					
		高さ	-0					

